

卒業生を囲んで (病肢高等部 5/17)

卒業生3名の方が来てくださり、仕事の内容、コミュニケーション、進路決定などについて話を聞きました。「自分からあいさつすることが大切で、話をして親睦を深めている。」「分からないことは質問をする、覚えなないといけないことはメモをすると良い。」「在学中には、パソコンの検定や資格など、やりたいことを勉強し技術を学んでおくが良い。」「在学中にできるだけ休まないくせをつけ、体力やコミュニケーション力を付けておくが良い。」など、アドバイスをいただきました。

生徒の感想として、「いろいろな働き方があると思った。」「(イベントの勧誘などが)とても大変そうだなと思いました。」「いろんな仕事をしている先輩がすごいなと思いました。」「資格などやりたいことは、学生のうちに積極的にやるべき。」「自分の将来について見えてきたのでよかったです。」など挙がりました。



春の現場実習 (病肢高等部 6/25~7/5)

《1年生》 校内実習を3日間行いました。内容として、実際の作業場で行われる製品作成/不良品の仕分けやバリ取りなどの作業に取り組みました。初めての実習ということで、生徒たちは緊張や不安を感じていましたが、始まるとすぐに慣れ、集中して取り組みました。



《2年生》 1年生の時の現場実習と比べて、目標を高めて取り組みました。それぞれが、実習時間を増やす、あらかじめリモートで職員の方と話して見通しを持つ、自力で通うなど、努力しました。自分の適性と将来の進路を考える実習になりました。



《3年生》 進路決定の時期が近づいてきた3年生は、これまでの進路学習や現場実習をもとに「自分に合う環境や仕事内容を確認する」「就労アセスメントを受ける」「生活の部分も体験する」「休養日を設けながら働くイメージをもつ」など、実習を行う目的や達成したい目標をしっかりと決めて実習に臨みました。

卒業後の進路・生活に向けて、また一歩歩みを進めた実習になりました。



実習先

《一般企業》 マクドナルド、ファミリーマート、AKUSYU BOOK&BASE、丹生寺坂農園、足羽山動物園

《福祉サービス事業所》

(就労継続支援A型) G.S.I、ハピネス、松本ファクトリー、ネクステクノ

(就労移行支援) FLAP

(就労継続支援B型) いろは、ふくい福祉振興会、ハウスやわらぎ、前進主義 AOSSA、山崎金属ペア、

永平寺あぐりの家、ジョブトライ厚生、ネクステクノフレーム、ベジテラス、就労支援センターあおい

事業所体験実習 (高等部Aコース 7/2)

卒業後の移行がスムーズに図られるよう、卒業後の生活を見据えて福祉サービス事業所での生活に慣れたり、職員の方に生徒のことを知っていただいたりする機会として、保護者同伴のもと、高等部3年の生徒1名が「げんきの家」で事業所体験実習を行いました。制作活動に参加し、職員の方が生徒の表情や仕草から思いをくみ取ってくださり、穏やかな表情で活動することができました。

げんきの家は、施設が新しくなり、その様子を保護者の方も確認できました。また、卒業後の生活や医療的ケアについての情報共有もできました。



【事業所スタッフへのアンケートから】

高校3年生の実習は、卒業後の利用に向けて行うことが多いので、できれば複数日実習できるとよいと思います。

*事業所さんへいらっしゃいます (事業所見学会) * (病支部・Aコース 7/22、8/5)

7/22(コースA) 保護者6名と教職員8名が、2グループに分かれて、以下の事業所を見学しました。

「モストヴィレッジ和田/森田」は、日中サービスもあるグループホームで、カフェのような落ち着いた空間でした。残念ながら医療的ケアには対応していませんでしたが、将来の「暮らす」ことを考えるきっかけになりました。

「げんきの家」は、昨年12月に新施設が完成、活動部屋や隣接するグループホームを見せていただきました。『どんなに重い障がいがあっても地域で暮らしたい』理念は、25年前の設立時から変わらず、どんな医療的ケアをしても受け入れを前向きに検討くださるとのこと。複数の支援者や支援場所を確保するためにも、他事業所と併用したり、ヘルパーなど居宅介護などのサービスを利用したりしている利用者の方が多いとのこと。

社会資源を知り、活用していけるとよいと感じました。

7/22(コースB)「つづきの家」(就労移行/B型/就労定着)、「オールウェイズ」(グループホーム)の事業所を見学しました。

「つづきの家」は作業種類の多さが売りで、生地のカットや箱作り、紙の仕分けや家電の回収・仕分け、パソコンを利用した通販の出品や梱包、出荷伝票の打ち込み等々多くから選べるそうです。相談しながら作業を選べる点が魅力だと思いました。

「オールウェイズ」は、身の回りのことはできるが、一人暮らしに不安がある人やサポートが必要な人向けの部屋を提供している場所で、ホテルのような部屋(トイレ、シャワー室、ベッド、エアコン、冷蔵庫完備)で朝晩の食事を提供しているそうです。起床支援や洗濯支援、掃除支援や服薬確認を行うなど手厚いサポートを提供している点が魅力です。

8/5「こども発達支援センターのびろ」

2名の保護者と11名の教職員、計13名が見学しました。令和6年4月に開所したばかりのセンターです。浮遊体験ができるスパイダーやボルダリングなど、室内でも体を動かせる工夫があちこちに準備されていたり、スヌーズレンや横になれるソファベッドなど、リラックスできる空間もありました。支援者の体にも優しい、高さ調整ができる簡易ベッドがあり、今後はキャスター付きの湯舟も導入予定。放課後等デイサービスでは、発達障がいがある児童生徒も、医療的ケアの児童生徒も利用ができるとのこと。地域で子どもを支えてくれる一つの機関としてありがたい存在だと感じました。

進路ケース会議・相談会 (Aコース 7/22、29、30、31)

今年度も夏季休業中に中学部・高等部Aコース生徒の進路ケース会議・相談会を開催しました。生徒6名の保護者をはじめ、相談支援専門員の方や地区の障がい相談事業所の方、現在利用している放課後等デイサービス事業所の方をお呼びしました。保護者の思いを聞き取りながら、中学部の生徒は、今困っていることや必要としていることは何か、どんなサービスが必要なのか話し合いが行われました。高等部3年生は卒業後の生活をイメージした話題を中心に、卒業後に利用していきたい事業所の利用日時や送迎の方法、入浴サービスなど、具体的な話し合いが行われました。また、話し合いを踏まえて後期の体験実習先の検討も行いました。現状を見つめ直すことで具体的な意見交換を行うことができ、今後の生活に向けて少しでもヒントとなる情報が得られたのではないかと思います。これからも関係機関との連携や情報共有を積極的に行い、より良い支援につながるよう取り組んでいきたいと思っております。

事業所さんいらっしゃい (8/29)

2事業所(訪問看護ステーション デューン福井、YOLO・FUKUI)をお招きし、事業所説明会を行いました。

福井市日之出にあるデューン福井は、精神科に特化した訪問看護ステーションです。精神科の看護を必要としている方の自宅などに出向き、生活のしづらさや困りごとの相談、助言・援助などのトータルサポートしてくれます。「地域で暮らすための応援団」という言葉が印象に残りました。

YOLO(=You Only Live Once、「人生、一度きり」)は、障がいがあってもなくても、当たり前、地域で/家で暮らし続けることを核に、障害福祉サービスの訪問系サービスを展開。介助者(ヘルパー)は家政婦ではなく、その人の「できない部分」を補うだけの黒子のような存在で、どんな人も当たり前で地域で暮らせるお手伝いをしているだけと、笑う代表理事(本校学校評価委員会理事でもあります)北山さんでした。

進路学習会 (8/29)

越前町相談支援センターさざんか 管理者 主任相談支援専門員 渡邊智恵子氏をお招きし、「障害基礎年金の受給に向けた手続き」について学習しました。当日は9名の保護者の方が参加してくださいました。

申請には、「受診状況等証明書」、「病歴・就労状況等申立書」、「診断書」、「年金請求書」の書類が必要とのことでした。(これらの書類は、日本年金機構のホームページで閲覧することができます。)将来障害基礎年金の申請を希望される方は、学校や療育機関からいただいた本人に関する資料を残しておく、「病歴・就労状況等申立書」の作成時に参考にできるそうです。手続きの手順や申請書類作成のポイントなどを教えていただき、大変有意義な会となりました。

